

第44回林業技術コンテスト

日本林業技術協会

日本林業技術協会主催による「第44回林業技術コンテスト」が5月26日(火)に東京の日本林業技術協会で開催されました。北見営林支局からは、当センター緑化第一係長の稲川が参加し「知床半島におけるエゾシカの樹木被害」について発表しました。発表課題は、全部で15課題であり森林施業の発表が中心となる内容でした。

結果は、昨年に引続き「日本林業技術協会理事長賞」を受賞することが出来、ここ



数年におけるセンターの調査研究が評価されたことに、職員一同大変喜ばしく思っています。今後も、色々な視野から知床半島を起点に、これらの調査研究を進めていきたいと思ひます。

知床半島

斜里町からウトロに向け国道を進み 辺りの山々を見渡すと、数週間前のうす緑色の新緑の森が濃い緑に変わり道沿にはイタドリが繁茂し木の葉が茂ってきた。海岸は海が青々と広がり後方には、遠く網走市の能取岬が望まれそこからウトロまで続くなだらかな海岸線、その彼方反対側に薬琴山・雌阿寒岳がかすんで見える。太陽に輝く海の地平線がなだらかな球形を帯びて見える。春先に見られた道沿いで、雪の中から食べ物を探し食んでいた鹿の群れもすっかり見えなくなり若葉の茂る山の中に移動したようだ。



(羅臼岳)



(オシンコシンの滝)

観光名所の一つ「オシンコシンの滝」に来ると、観光バス・自家用車が多数駐車して団体や家族などの観光客が飛沫の飛び散る水量豊富な冷涼感のある滝を眺め、滝を背に記念写真を撮っている姿が見られる。ウトロ市街に近くなると、青く透き透り海底が見える波打ち際と、羅臼岳からなる知床連山が青空に浮き上がって見えてきた。例年ならまだある残雪がほとんど見られず、麓の新緑が次第に広がり頂上を目指して進み茶色い山肌が少しずつ緑に染まりつつある。

今年は、雪が少ないため残雪が少なく、沢沿いの谷間にわずかに見られる程度である。これから気温も昇り登山や観光に最適な季節となり、最高峰の羅臼岳の山開きも行われ登山客や観光客など訪れる人が多くなり知床半島も賑やかになると思われる。

知床の森から



北見営林支局 〒099-41 北海道斜里郡斜里町本町1番地
知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
E-mail siretoko@cocoa.ocn.ne.jp

平成10年8月 第55号



(キアゲハ)

北海道年2回(5-6
7-8)発生し、夏に
発生するものは、春
のものより大きい。

新緑の森を歩く

第41回「森林レクリエーション・in知床」を6月6日(土曜日)、遠音別岳山麓で実施しました。

参加者は北見市、網走市、留辺蘂、斜里の各市町から25名です。

今回、企画したイベントのテーマは、新緑の森で森林浴と自然観察を通し、森のすばらしさを知っていただくというものです。イベントのスタート地点は、観光客で賑わう「オシンコシンの滝」上部の高台からです。インストラクターの説明後、軽い柔軟体操を行い、一行は森の中に入り、森は新緑にふさわしくいっぱい開いた木々の葉におおわれていました。

コースの沿線には、エゾノタチツボスミレ、コンロンソウ、エゾノレイジンソウ等が咲いています。



高くのびるトドマツの大木やエゾマツの大木、コース下に見える小さな沼や落石を続けているマムシ岩と呼ばれる大きな岩、熊がしるした爪痕のついた木、クマゲラのあけたさまざまな孔、きびしい気候を証明する凍裂した木、未来を見すえて北見営林支局が設置した林木遺産資源保存林など、インストラクターの説明をみなさんは熱心に聴いていました。

一行は、センターで用意したハンゴンソウやヨブスマソウの山菜料理を囲み昼食をとったあと、にぎやかに行動を再開。イベントも終りに近づき、川辺でミツバ、フキなどの山菜を採り、眼下に雄大なオホーツク海を眺めながら、全行程約4km森林浴を味わい、自然がつくりだす数々の場面を観察し、新緑の森をあとにしました。

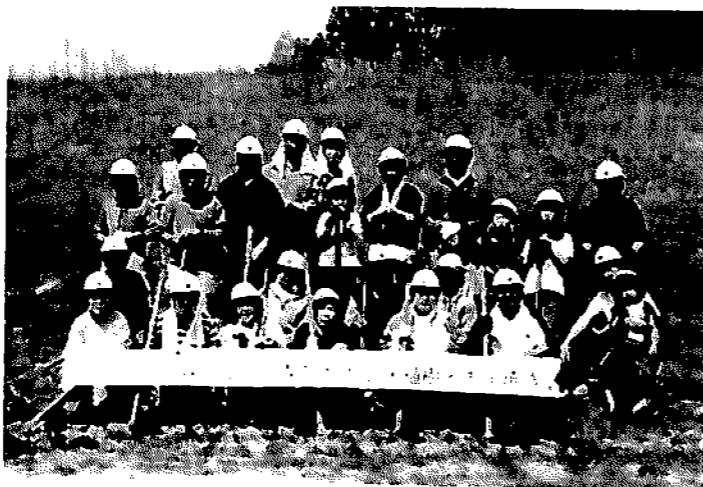
第20回
森とのふれあい

森の手助け・
植樹と炭焼き体験

今年度最初のイベント、第20回「森とのふれあい」『森の手助け・植樹と炭焼き体験』を5月17日（土）に実施しました。

今回のイベントは、北海道国土緑化推進委員会から「緑と水の森林基金」事業助成金を受けての実施です。

国民参加の森づくりを目的に、昨年からは始めたイベント企画「体験林業」に新たな取組みとして「炭焼き」体験を加え実施、当日の参加者は24名で



家族での参加が半数以上の構成でした。

午前中は植樹を行ない、植樹木はミズナラ、カツラの200本です。特にミズナラの苗木は地元斜里町が平成7年度に設立し「知床どんぐり銀行（知床森林センター協力）」で、どんぐりから育てた苗木で初めての山出しです。

また、植樹場所となる箇所は地すべりによる斜面の崩壊防止工事を施した治山工事箇所で地盤が堅く、慣れない植付け道具

の鎌を手に参加者のみなさんは大変苦勞をしていました。

参加者は苗木が枯れないで活着するように1本1本を丁寧に根気よく植えていました。午前中は気温も上昇し汗をびっしょり流しながらの植樹となりました。

午後からは、センターに設置した炭焼き窯で炭焼き体験です。

炭窯は、ステンレス製の窯2台を用意しました。

1台の窯に入る量の原木（ミズナラ、ダケカンパ、イタヤカエデ）を切り、窯



に詰めて着火までを体験して頂きました。そして、あらかじめセンターの方で作って用意していたもう1台の炭窯から炭を出し



焼き具合について見てもらいました。原木切りや、窯口閉めの粘土塗りでは「幼少に返ったみたい」だととても喜んで作業をしていましたし、簡単に炭焼きが体験出来ることも実感されたようです。

帰りには、参加者全員に出来上がった炭を持ち帰っていただき一日の新しい体験を楽しく終えることが出来たようです。

98. みどりの
フェスティバル開かれる

5月31日清里町緑町のJR駅前広場を会場に『98・みどりのフェスティバル』が快晴の中開催され、知床森林センターでは、地元清里営林署と参加しました。昨年も好評だった知床の動植物写真の展示及び高山植物やエゾシカ、エゾリスなどを



(ハガキ申し込みをする親子)

パソコンで私製ハガキにプリントアウトしてプレゼントを行いましたが、希望者の方々は、人気の写真を迷いながら選んでいました。地元商店街からのお土産店等もたくさん出店され盛況でした。みどりのフェスティバルらしいイベントとして、みどりのウェディング、小学生のクマガラ太鼓、丸太転がし競争、小鳥の巣箱づくり、清里町の有志によるよさこいソーラン等盛りだくさん、清里営林署による樹木当てクイズは景品も有り大人気でした。



(思うようにいかない丸太転がし)